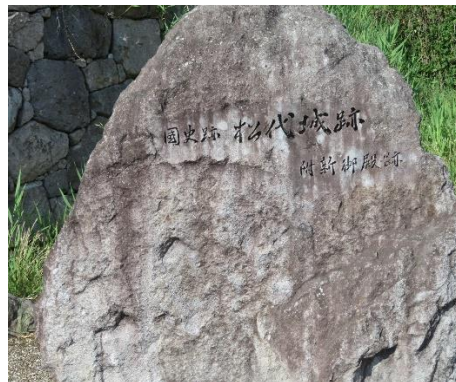


## 松代城 長野県長野市松代町松代 44

松代城は永禄 3 年(1560)頃に武田信玄が川中島合戦時に最前線基地として、長野盆地の南に位置し東南西の三方を山に囲まれ北側は千曲川を利用した平城の「海津城」の始まりとされている。その後、城主は変わるが元和 8 年(1622)真田信之が上田から移付され 250 年間真田の居城となった。本丸御殿は享保 2 年(1717)に焼失し、明治 5 年(1872)の廃城後、建物は取壊され濠は埋められ城郭としての景観は失われた。本丸正面に位置し最も大きな門の太鼓門・太鼓門と反対に位置し千曲川に通じる裏門の北不明門は当時の礎石を利用して残されている。



松代城の説明版



松代城の石漂



城正面の入り口



太鼓門



鏡石



海津城の石漂



本丸跡

